

おわりに

豊饒の海が牙を剥き、大地が鳴動して全てが始まった3月11日。

気仙沼は壊滅的な被害を受けましたが、病院は小高い丘の上に建っていたため津波や火災の難を逃れました。

職員は奇跡的に全員無事でしたが4人に1人は家を流されたり家族を亡くしてしまいました。通信や電気などのインフラが途絶し被災状況が全く把握できない中、直後よりトリアージ体制を執りました。

なによりも有難かったのは、被災早期より全国の数多くの応援チームから強力なご支援をいただいたことです。

特に、東北大学病院の里見進院長先生始め各科の先生方には手厚いサポートを頂き、当院のスタッフの疲弊も最小限に抑えられ、なんとか拠点病院としての役割を果たすことが出来たのではないかと思います。

ご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

この冊子には、震災後の気仙沼市立病院の記録と記憶が凝縮されています。後世の為、復興の為、ご熟読ください。

最後に、震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、今も避難を余儀なくされている方々に心よりお見舞いを申し上げます。

気仙沼市立病院 副院長
安 海 清

編集後記

震災から1年が経ちますが、この間被災地では人口の流出に歯止めをかけることができません。地域医療を担う医師や看護師の流出も深刻で、基幹病院である当院でさえ職員が去って行きます。政治の対応の遅れ、雇用の問題、精神心理的な疲労、家族の生活の問題など理由は様々あると思います。その中で、私たち医療人に出来ることは、やむを得ず気仙沼を離れることになりながらも故郷での生活再建を望む人々や、被災地に残って復興を目指す市民にとって、安心して生活し子孫を築き上げていくことができるような医療福祉体制を整備しておくことではないかと考えています。この充実が図れれば被災地の復興を強力に後押しすることにもなるでしょう。

この記録集の副題を「今を生きる、ともに未来へ」といたしました。気仙沼では、震災を契機に医療福祉に携わる人々の地域医療に対する問題意識が確実に高まっており、今後直面するであろう多くの課題に対して様々な新しい取り組みが着手されています。当院はその中心的な役割を果たすことが求められています。新しい歴史に向かって歩みはゆっくりでも確実に、そして、市民とともに前へ進んでいくことが私達の使命であり、気仙沼で文化や経済を支えてきた先人達への恩返しになるのだろうと感じています。

活動記録には、家族や親類、友人の安否を気遣いながら懸命に災害医療を支えた職員の想いが凝縮されております。医療というものは科学的根拠のもとに成立する行為です。従いまして、編集する立場としては、感情を抑えて鳥たちが海山を俯瞰するように、可能な限り客観的に活動内容を評価するよう努めましたが、編纂を進めていく中で、震災当時の記憶が蘇るとき、昂る感情を抑えきれなくなることもありました。どうぞ、心情をお汲み取りください。

最後になりましたが、この記録集を発刊するにあたり、貴重な資料の掲載を快諾いただきました東北大学大学院工学研究科准教授越村俊一先生、写真を提供下さいました東北大学病院脳神経外科大沢伸一郎医師、当院泌尿器科大久保鉄平医師に心から謝意を表するとともに、編集にご尽力いただきました三陸印刷株式会社村上智氏をはじめ関係者各位に厚く御礼申し上げます。

気仙沼市立病院外科 横山成邦

気仙沼市立病院 東日本大震災記録集編集委員会

編集委員長 横山 成邦

編集委員

診療部	横田 憲一 笠沼 勇一	大友 浩志 高橋 周	尾形 和則 相澤 宏樹
看護部	熊谷 律子		
診療技術部	千葉 義広 佐藤 良子	佐藤 巖 小松代徳貴	熊谷由美香 平田恵里子
事務部	紺野かつえ 山川 康一	齋藤十久子	山内 敬子
附属看護専門学校	内海 永子	及川亜希子	
地域医療連携室	阿部 孝子		

気仙沼市立病院 東日本大震災活動記録集 **今を生きる ともに未来へ**

平成24年3月30日発行

編集 気仙沼市立病院記録集編集委員会

発行 気仙沼市立病院

〒988-0052 宮城県気仙沼市田中184
TEL 0226-22-7100(代)

印刷 三陸印刷株式会社

〒988-0141 宮城県気仙沼市松崎柳沢228-100
TEL 0226-22-0319(代)